



# 宇治茶の文化的景観を 世界文化遺産に。

UJI-CHA TEA CULTURAL LANDSCAPE;  
AIMING FOR WORLD CULTURAL HERITAGE STATUS



## 宇治茶の文化的景観 Uji-cha Tea Cultural Landscape

ア 「抹茶」「煎茶」「玉露」に代表される日本の緑茶は、中国では途絶したとみられる「蒸し製法」と粉末茶に湯を注いで飲む喫茶法及び茶を湯に浸してエキスを飲む喫茶法が、京都府南部の山城地域で生まれた「覆下栽培」と「宇治製法」という生産技術によって日本独自の緑茶へと進化したものである。宇治茶の文化的景観は、日本の緑茶という固有の文化的伝統の起源であり、その伝統的な生産のあり方が現在に継承されている。

イ 宇治茶の生産は、山城地域の自然環境条件を活かしつつ、日本独自の生産技術及び流通・消費条件によって、茶園、茶工場、茶問屋等からなる独特の土地利用と景観を形成している。その土地利用と景観は、生産に関わる技術革新と合理化により、有機的に進化を遂げつつ現在に継承されており、日本の緑茶生産に関わる土地利用と景観を代表する例である。

ウ 宇治茶は日本人の日常生活の喫茶文化として根付くとともに、「茶の湯」「煎茶道」という社会的、文化的、思想的に強い影響力を持つ固有の喫茶文化の形成に寄与してきた。

以上のように「宇治茶の文化的景観」は、日本の緑茶という固有の文化的伝統の起源とその生産方法の継承、その生産に関わる土地利用と景観の代表例、喫茶文化への寄与、の各点において顕著な普遍的価値を有する資産である。

京都府、宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、宇治田原町、和束町、南山城村



平地のみならず丘陵や河川敷にも展開される「抹茶」「玉露」を生産する覆下茶園



傾斜地に展開される「山なり開墾」と呼ばれる「煎茶」を生産する露地茶園



水運など地の利を活かした茶問屋の町並み



伝統的民家と茶工場が残る集落

# 宇治茶の文化的景観 鳥瞰図

至 三重



至 滋賀

## 宇治田原町

中世に遡る小規模で素朴な露地茶園や茶農家集落が開かれている。交通の要所である郷之口には茶問屋街があり、周辺には覆下茶園が広がる。

奥山田

湯船

童仙房

今山

田山

高尾

## 南山城村

木津川の上流に、京都府内屈指の標高を活かした縦畝に代表される茶園が大規模に展開する。

## 宇治市

宇治川が丘陵部を抜けて平地に出たところに広がるのが、中宇治の茶問屋街と覆下茶園である。背後の丘陵部の谷筋には白川の覆下茶園も控える。

郷之口

## 和束町

丘の頂部まで駆け上がるような広大な山なり茶園が見る者を圧倒する。

石寺

木津川

至 奈良

至 京都

宇治川

中宇治

白川

## 木津川市

輸出茶の集積地として栄えた上狛の茶問屋街が水陸交通の要所に形成されている。

上狛

## 城陽市・八幡市

流れ橋で木津川兩岸を繋ぐ上津屋の覆下茶園が象徴的な景観を見せる。

上津屋

飯岡

## 京田辺市

独立丘陵に開かれた飯岡の覆下茶園が象徴的な景観を見せる。

上津屋

野尻

岩田

至 大阪